

1962年5月5日～6日 前走中

5月 7日 09h-00m 京支那海大須賀崎南小島東方漁場の100-230mの水深の所で採集調査す。

5月 8日 南小島東北方を調査したが魚類香ばしくをいたため、漁場を東に赤尾崎附近に移動して採集阿崎附近漁場では、4回採集して相当の漁獲をあげた。

5月 9日 昨日の漁場25°-47'N、124°-52'Eを中心に前後16回3回以上は標識浮標を設置して採集実施した。20h-00m一応の調査を終ったので、更に後日の調査結果と相俟って其の成果を期することとし、標識浮標を収容して帰途に就く。

5月10日 18h-50m 泊港帰港す。

4. 漁場別状況及び漁獲状況

イ、Lacciofield Bank

当漁場は南支那海の昭々中央部、台湾南端より西西方500kmの距離にある。其の形状は概ね楕圓形をなし、15°-50'N、114°-21'Eを軸心として、長軸は南西から北東へ約75里、短軸は南東より北西へ35里もある広大な面積の礁である。其当礁の形成状態は急峻で1000m以上の水深より500-200-120mと急峻に浅くなり、120m付近より其の傾斜はゆるやかとなっている。200m等深線に沿り縁辺及び内部には、最深12-20m位の台地が多数存在して居り、礁内の水深は大体30m以下となっている。

α、南側漁場

当漁場では4月20日月潮以来、中央彎曲部の東側Plover Shを皮切りに、西端Penguin Bankとの中間を急傾斜部に於て主に80-120m附近を4月29日までの10日間、合計17回採集し調査実施したのであるが潮流は常に北偏(主にNW)して居るため、南側の当漁場は常に荒上となっている。(流速は小潮時は余り速くないが大潮時には大分速い)故に120m位の水深に於て進入させても、揚潮時には60-70mの浅所に乗り上げるので、反復潮上りして採集調査した。底質は岩、珊瑚礁、砂、貝殻等であつて、深所より浅所に乗り上げる潮流であるため、「ふもり」や釣魚等の獲りも多く、「しもり」投網、鰐魚の掛りが非常に多かった。釣獲魚は20種類位でヒメダイは大イシチビキとが殆んどで全漁獲高2.653尾中ヒメダイ1060尾(44.3%)、大イシチビキ1,457尾(44.2%)で全体の88.5%を占めている。外にシロダイ、アラ、アオチビキ等14種類で約20尾であつた。

当漁場は深所の中に急峻に突出する礁であり、長く横たわる急峻部には常に北流が吹き当てて上昇流が出来るため、プランクトンや小魚類の棲息が豊富であるため、ヒメダイ、大イシチビキ其の他の魚類も主としてこの急峻部附近の洞上で釣獲された。漁獲状況を漁場別に見ると、Plover Sh附近では漁獲も少なく、魚体も不揃いで、小幼魚もあつた。釣獲率の高かつたのはBalfour Sh附近からSmith Shの中間地域の水深80-120mの場所であつた。

Penguin Bankは特に急峻(10-50m)と成つて居り、海底の起伏もなく魚類群による魚群の映像も認められなかつた。

各漁場とも「フカ」による被害は相当あったが、特にOvation Sb 付近では其の量も多く、使用漁具数17組のうち10組の漁具の破産及び釣鉤等はほとんど切断される状態であった。(フカ2尾は使用まで手繰り寄せたが、魚体大きく暴れて危険で引上げることが出来ず取逃してしまった。)

表面水温は26.3°~28.0°Cであった。

ロ、北側漁場

Banker Sb 付近からOliver Sb 付近を探索するに120m以深は約30°位の傾斜で次第に深くなって居るが、海底の起伏は全く平坦で潮魚の棲息には余り適しないように思われた。併し120m以深67m位までの水深では相当起伏もあり、潮魚棲息には適当と思われた。併し釣獲された魚は殆んどがヒメダイ、大口イシチビキ、アオチビキ等の小幼魚が多く、又成魚は殆んどが成魚していたことから推察すると此等の魚類は産卵期になると南側漁場から北上して来て、此処で産卵し、孵化後は幼小時を此処で生活し成長するにつれて、南上側へ南側に移動するかと推察される。

釣獲魚はヒメダイ31尾(外に小幼魚79尾)、大口イシチビキ15尾(外に小幼魚)シロダイ12尾、アオチビキ7尾(外に小幼魚)、ヒラアジ、アラ、クナビダイ等であった。潮況は二重潮の現象もあったが、大体N-W-Wのようであった。

リ、20°-00°N、114°-00°Eの東方支那大陸側240m層の漁場

魚探によって海底状況を調査したところ、起伏は少なかつたが、水深175-230mの所で4回に亘って採集調査したが、大潮のため潮速早く(N-W)操縦困難のため調査は否ばしくなかつた。

魚獲物はハマダイ、タイ、ドンゴ等の如き一本釣漁業の対象魚として優秀なる魚類の外アラカンベナ等であつたので、潮速よく操縦すれば好漁獲を上げ得るものと思ふ。なお此漁場では沖群を突き上げ探餌し、日波を量している操群を多数見らる。表面水温は27.1°-27.2°Cであつた。

ハ、Voreker Bank 漁場

当漁場は東沙島の北西方44kmの距離に支那大陸側の200m層外にあって、南北二つのバンクに分れて居る。バンク内の水深は140m以下60m内外であつて周囲は550m位であつて浅所に至る傾斜は稍々急であるが、内部は比較的平坦である。

底質は主に岩盤であつた。

South Voreker Bank では其の南東側の水深65-95mの所で32回、North Voreker Bank では2回採集調査したが、魚獲物は331尾で其のうち199尾がヒメダイで60%、シロダイが69尾で21%、アラ、カンベナ其の他で63尾で19%であつた。当漁場でも大潮のため潮速早く(N-W)、殊にNorth Voreker Bank では潮行き速く、折角好漁場らしい場所に通達しても、引取り確保することが出来ず、2回で調査を打ち切らねばならなかつた。

潮速よく操縦確保が充分出来て、操縦すれば好漁獲を上げ得るものと思ふ。

なお当漁場には「大型アラ」の獲量も多く、5、60尾を釣上げた外、これによる釣鉤の切損が非常に多かつた。表面水温は25.1°-26.2°Cであつた。

ニ、尖頭嶺嶺附近漁場

南小島の東方及び北東方等95-250mの水深で採集調査したが、潮速速く漁獲否は